

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第4部門第1区分
 【発行日】平成19年6月14日(2007.6.14)

【公表番号】特表2001-520340(P2001-520340A)
 【公表日】平成13年10月30日(2001.10.30)
 【出願番号】特願2000-516137(P2000-516137)
 【国際特許分類】

E 2 1 D 9/00 (2006.01)

E 2 1 D 11/18 (2006.01)

【F I】

E 2 1 D 9/00 Z

E 2 1 D 11/18

【誤訳訂正書】

【提出日】平成19年4月24日(2007.4.24)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 掘削場所の上方にある地表面に害を与えることのないトンネルにおける掘削場所に、その同じ場所を掘削中及び／又は掘削後に支持構造を形成する方法であって、トンネル掘削時にアーチ型の支持構造が形成されるとともに、アーチ部材の先端が一連の支持ユニットに沿って形成され、アーチ型支持構造はアーチ部材(12;50)で形成されることを特徴とした一連の部材を前記掘削場所に直立させて、次々と押す或いはジャッキで押すことを含む支持構造を形成する方法。

【請求項2】 前記掘削場所がトンネルであって、前記トンネルが掘削されるにつれて、トンネル中の前記支持構造の長さを増すために、時々一連の前記アーチ部材(12;50)をジャッキで前記トンネルの中に押し、前記トンネルの開口から新しい部材を挿入する段階を含む請求項1記載の方法。

【請求項3】 前記トンネルの掘削が、挿入される前記アーチ部材(12;50)の先頭のものの前で行われる請求項2記載の方法。

【請求項4】 前記支持ユニット(4)が案内として機能するように初めに設置され、その場所に沿ってアーチ型構造が挿入される請求項1～3のいずれかに記載の方法。

【請求項5】 前記支持ユニットがアーチ型構造の側壁を形成するために上方へ伸びて、前記アーチ部材(12;50)が屋根パネルとして機能し、前記アーチ型構造を形成するために挿入される請求項4記載の方法。

【請求項6】 前記トンネルの中に前記ジャッキで押されるパネル部分の先端が、一連のユニット(4)によって形成される前記軌道(10,10')の中に置かれ、更に、支持構造を形成するためのアーチ部分を受けるのに十分な長さの軌道を供給するために、前記トンネルの中に前記支持ユニット(4)を前記ジャッキで押す段階を含む請求項1～5のいずれか1項に記載の方法。

【請求項7】 前記支持ユニット(4)が、前記ジャッキで押した後に、軌道の形態をなすための凹型の部分の露出するように操作される請求項6記載の方法。

【請求項8】 親水性ガasket又は目地詰め可能な注入ホースが、パネルが作業場に設置された時に、パネル間の継手を防水するように前記パネルの間に挿入されることが可能な請求項1～5、6～7のいずれか1項に記載の方法。

【請求項9】 前記アーチ部材(12;50)が、少なくとも間隔がある二組の一連

の前記支持ユニットに沿って導入されることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 1 0】 前記支持ユニット (4) の中に前記アーチ部材 (1 2 ; 5 0) の軌道が形成される請求項 9 記載の方法。

【請求項 1 1】 前記支持ユニット (4) が一連のブロックである請求項 9 記載の方法。

【請求項 1 2】 前記支持ユニット (4) がトンネル (4 0) を形成することによって設けられる請求項 9 記載の方法。

【請求項 1 3】 各々のトンネル (4 0) において、前記支持ユニット (4) に付随する軌道に沿って通過する前記アーチ部材 (1 2 ; 5 0) の先端を受けるための軌道が形成されることによって前記アーチ部材 (1 2 ; 5 0) を支持する請求項 9 記載の方法。

【請求項 1 4】 前記トンネル (4 0) が入口及び更なる作業のために使用されることができ請求項 1 2 記載の方法。